

2・3日、3年前の熊本地震で被災し新築された8師団の北熊館（大講堂と熊幼コーナーを含む資料館）見学会を行う。

人・家族会員の減少は約140人。此の状況で仮に年間支出が現在の約1億円のまま続くと、手持資産の11億円は10年後には4割を切り15年後には零となる。その頃には従前会員の最後尾である我々は、借行会員を卒業して居るが借行社の永続の為には拱手傍観では済まされない。9月の連絡会で事務局から将来計画を伺い度いとお願ひして今日を迎えた次第である。

先ず林財務委員長から本年度予算は、対前年度支出を1200万円節減したが、収入も1270万円減り、赤字は3100万円と70万円の増加となった。会費収入は1640万円が4年後には750万円に減る。総合すると、11億円に近い資産は10年後には5億円を切り15年後には1億円以下になるとのお話であった。

山越事務局長の説明で、年間賃借料1920万円の事務所費削減には現在地での縮小か自社ビル購入移転であるが、現在地は都心部でも高価格帯であるとのこと。

説明会後の会員の提案は①法人会員の増加②A・B会員の統一③会誌の発行回数と、既に将来検討委員会で検討中の項目以外は出なかった。

最後に六幼各校の会合は、東幼が9月27日東幼会を34名で実施。仙幼は有志の会30名超を来年も実施予定。熊幼は10月

熊幼47期

藤木俊一

六幼連絡会を9月24日に実施。当番校は熊幼で、主要議題は借行社の将来に関してである。去る6月の当連絡会で、こ

こ数年の従前会員の減少は年約700